

# 県民の皆さまへ

## 日本脳炎ワクチン接種について

日本脳炎ワクチンにつきましては、予防接種法の規定に基づき、各市町村において、定期の予防接種を実施しております。

本年5月、疾病・障害認定審査会において、現行の日本脳炎ワクチンの使用と重症のADEM(急性散在性脳脊髄炎)の因果関係を肯定する内容の答申が出され、5月26日付けで厚生労働大臣による因果関係の認定がなされました。

厚生労働省は、ワクチンとADEMの因果関係については、厳格な科学的な証明に基づくものではないものの、より慎重を期するため、現行の日本脳炎ワクチン接種の積極的勧奨を行わないよう、各市町村に対し、勧告を行いました。

しかし、流行地へ渡航する場合、蚊に刺されやすい環境にある場合等、日本脳炎に感染するおそれが高く、本人又はその保護者が希望する場合は、効果及び副反応の説明を受け、同意をした上で、現行の日本脳炎ワクチンの接種を行うことができます。

詳しくは、お住まいの市町村保健センターへお問い合わせください。

### ◆ すでに日本脳炎ワクチンを受けられた方へ

日本脳炎ワクチンの副反応としてのADEMは、70-200万回の接種に1回程度、きわめてまれに発生すると考えられています。万が一発症しても通常は軽快し、その後の再発はみられません。ワクチン接種後数日から2週間程度の間発熱、頭痛、けいれん、運動障害等の症状があらわれた場合は、医療機関において医師の診察を受けてください。

### ^【日本脳炎について】

- 日本脳炎:主にコガタアカイエカによって媒介され、日本脳炎ウイルスによっておこるウイルス感染症で、ヒトに重篤な急性脳炎を起こす。
- 感染経路:ヒトからヒトへの感染はない。ブタの体内で増殖したウイルスを蚊が吸血し、そのうえでヒトを刺した時に感染する。
- 潜伏期間:6日～16日
- 症状:数日間の高い高熱(38～40 あるいはそれ以上)、頭痛、嘔吐などで発症し、急性に頂部硬直、光線過敏、意識障害、神経系障害を生じる。
- 治療法:対症療法
- 予後:死亡率は発症者の約15%、幼少児や老人では死亡の危険は大きい。精神神経学的後遺症は生存者の45%～70%に生じる。

### 【日本脳炎ワクチンによる主な副反応】

- ショック、アナフィラキシー様症状
- ADEM(急性散在性脳脊髄炎)

### 【ADEM(急性散在性脳脊髄炎)について】

- ADEM:各種のウイルス感染あるいはワクチン接種後4～21日目に、複数の病巣による神経症候を急性にきたす脱髄性脳脊髄炎。
- 症状:頭痛、発熱、悪心、嘔吐、意識障害、精神症状、痙攣などの脳炎症状を主体とする場合と対麻痺(両下肢麻痺)、分節性感覚障害、排尿障害など脊髄症状を主体とする場合とがあり、末梢神経障害を呈する場合もある。
- 治療:副腎皮質ステロイドが用いられる。
- 予後:予後は比較的良いが、神経後遺症が10%程度ある。
- 発生状況:日本脳炎ワクチンによる副反応は14件(平成元年～17年5月)。